

233 中央大学講演会

〔『法学新報』第十九卷二（二一七）号

明治四十二年二月一日〕

○中央大学講演会 去月二十四日午後一時より中央大学第三講堂に於て講演会を開催し第一席卜部喜太郎氏は「経典としての民法」なる題の下に宗教と民法の關係に付て雄弁を振はれ次に

近近歐洲觀光の途に上らるへき山崎林太郎氏登壇「法令と實際」と題して東京市助役在職中に於ける出来事に關して其所感を明快に説述せられ最後に花井卓藏氏は法学界刻下の問題たる「犯罪少年に就て」滔滔二時間に渉る大演説あり当日は聴衆頗る多くして満場立錐の余地なき有様なりしも静肅に傾聴し日暮漸く散会を告げたり因に学長菊池博士は生憎差支の爲め欠席せられたるは一同の遺憾とする所にして卜部、山崎、花井三氏の講演筆記は次号以下の本誌に掲載すへし